

難民支援最前線—日本の場合

講演者：石川美絵子氏

(社会福祉法人日本国際社会事業団難民担当ワーカー/
特定非営利活動法人なんみんフォーラム事務局)

日本に暮らす外国人は200万人。積極的に日本の社会に参加していく外国人が増える一方で、今なお多くの課題に直面する人たちが多数存在します。とりわけ、日本で不安定な立場に陥りやすい人たちの中に、難民認定を求める「庇護申請者」がいます。2013年度難民として認定された人の数は、たったの6名。こうした人たちの中には、日本で出産する女性も含まれます。

多言語多文化教育研究センターは、「多文化化する日本社会」の中で生まれる問題に対し、これを理解し、さらにはその問題解決のために社会で活躍できるような人材を輩出するために教育・研究・社会連携の活動を行っています。その研究活動の一環として、「多文化社会で働くということ」をテーマとして、第一線の実践家の方をお招きして、お話いただくことになりました。

その第一回として、社会福祉法人日本国際社会事業団(ISSJ)において難民担当ワーカーを務め、また特定非営利活動法人なんみんフォーラム事務局において活躍される石川美絵子氏を講師として招きお話を伺います。ISSJは、在日難民認定申請者への相談援助事業に加え、国際養子縁組支援や国境を超えて離れ離れになった家族の再会援助(無国籍の子どもの国籍取得援助)、カンボジアのストリートチルドレンの自立援助など、実にさまざまな活動を実施しております。多言語・多文化化の諸課題に関心のある皆さんの多くのご参加をお待ちしております。

日時：2014年7月25日(金) 16:00-17:30

場所：研究講義棟4階 422教室 総合文化研究所

主催：東京外国語大学 多言語・多文化教育研究センター

共催：東京外国語大学 総合文化研究所

問い合わせ：長谷部美佳研究室 mika.hasebe@tufs.ac.jp